

特集

## 佐藤政権

—ながかった8年—

第68通常国会もおおづめに迫った6月15日、衆議院に「佐藤内閣不信任決議案」が提出された。

鈴木康雄（公明党）

佐藤内閣が7年有余の命運を終ろうとしている現在にあって皮肉にも不信任決議案が提出されたということはいかに多くの国民が、佐藤内閣に対して厳しい怒りの眼を向けているかという事実を佐藤総理、あなたは率直かつ深刻に受けとめるべきであります。佐藤内閣の最後にあたり、あえて不信任の理由をあきらかにし全国民の名において佐藤内閣を告発せずにはおられないことは、佐藤内閣の一日の存続は我が国の大きなマイナスであり、そのまま国民の苦しみを増大させるものだからであります。

塚本三郎（民社党）

あと日ならずして消えさらんとする佐藤内閣の背後にあえて不信のやいばをあてなければなりません。思えば昭和39年、第一次佐藤内閣が発足して以来、あなたは機敏に時流をとらえて、新しい構想と耳新しいことばをもって国民に呼びかけられたのであります。寛容と忍耐という言葉をこのんでもちいながら、その実法案審議にあたっては、強行採決すること数しれず300議席にあぐらをかく多数横暴は、本院のじょうとう手段と化しているではありませんか。また外に向っては進歩と調和を旗じるじに、たかだかとかかげながら、その実、国際政治の舞台では反動と孤立の道を空しく歩き続けて、今は国際政局の孤児となりつつあることは、自民党議員各位も認めておられるところであります。経済大国日本の若者は、精神的にうえたおおかみと化し、その一部がアウトローの暴徒と化していることは御存じないはずはないのであります。佐藤内閣は人間尊重の政治をとらえながら、彼等若者に何を与え、何をなさんとしたのでありましようか。

なんと批判されようと、忍耐と寛容の佐藤さん、多数をもってこの案を否決。しかし会期末の16日引退の花道にと考えていた参議院で審議中の「健保改正法案」「国鉄値上げ法案」の二つの法案は時間切れ廃案となった。翌17日、自民党議員総会について引退を声明、7年8カ月にわたるながすぎた政権の座を去った。そして記者会見での席上、

「新聞記者の諸君とは話さないことにしている。偏向的新闻は大きらいだ」と日頃のうろふんをばくはつ。佐藤政権の暗い裏面を国民の前にばく露した。佐藤後をめざす政権争いはここにスタート。田中か、福田か、はては三木か、大平か。佐藤亜流政権にむける国民の眼は厳しい。